

進路指導・キャリア教育だより

# 夢に向かって

第4号

令和4年2月14日(月)



## 立志式

2月4日(金)に2年生が立志式を迎えました。立志式は、奈良時代の「元服の儀」にちなんで数え年の15歳を祝う行事です。参加者は、将来の決意や目標などを明らかにすることで、大人になる自覚を深めることとなります。当時の15歳は、もう大人でした。立春の日に行われていたことから、「立春式」とも呼ばれていました。元服の「元」は「首」のことで冠を被ることを表し、「服」は成人の服を着ることを表しています。髪型を変えたり、改名したりすることもあったそうです。女子の元服では、「髪上げ」や「まゆはらい」などとも呼ばれていました。平安時代には、「結髪加冠の制」が制定され、武家や百姓、町人にも広まり、大人への自覚を促す教育文化として定着しました。明治時代になると、西洋文化の影響や伝統文化の軽視などから元服の儀は次第になくなっていきました。

立志式を機に、将来の夢や目標を明確にして誓いを立て、これから始まる高校受験に向けて努力し始めます。また、周囲の人に感謝することも大切です。

今年度も昨年度に引き続き、生徒一人一人が、将来の夢や目標を発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大



の影響から、残念ながら保護者の参列なしで行うことになりましたが、115名の立志者一人一人が自分の夢や目標を明確にし、誓いを立てることができました。

## キャリア教育の役割 …「つなぐ」こと

平成29年度告示の学習指導要領で、初めて「キャリア教育」という言葉が登場しました。キャリア教育では、今の学びが将来役に立つことを理解し、既習事項と今の学びを結び付けて考えることが必要です。これが、「縦のつながり」です。また、教科と教科、教科内、地域の人々をつなぐこと、これが「横のつながり」です。未来に向かって学びが生きていることを実感し、学ぶ意欲を向上させることが大切です。

日常の教科等の学習において、各教科間、教科と特別活動(学級活動や生徒会活動、学校行事など)、授業と生活のつながり、学びと人生、学びと社会、学びと町のつながりを体得できるようにしていけることが望ましい姿です。

